

平成 30 年度 第 2 回岩沼市防災会議 議事録

開催日時／平成 30 年 12 月 19 日（水）午後 1 時 30 分～午後 2 時 39 分

開催場所／岩沼市役所 1 階大会議室

出席者／会長 1 名、委員 22 名

会長	岩沼市長	菊地 啓夫	
委員	東北農政局 宮城県拠点総括農政推進官	武田 久信	
	東北地方整備局 仙台河川国道事務所 所長	奥田 秀樹	
	東京航空局 仙台空港事務所 空港長	伊藤 聡司	欠 席
	第二管区海上保安本部 宮城海上保安部 部長	川口 修	欠 席
	陸上自衛隊第 22 普通科連隊 重迫撃砲中隊長	辻 一城	欠 席
	宮城県仙台地方振興事務所 所長	山本 雅伸	
	宮城県仙台保健福祉事務所 所長	三浦 正之	欠 席
	宮城県仙台土木事務所 所長	平塚 智	
	宮城県亘理農業改良普及センター 所長	山村 孝志	
	岩沼警察署 署長	横山 郁雄	欠 席
	東日本旅客鉄道株式会社岩沼駅 駅長	高橋 功	欠 席
	東日本電信電話株式会社宮城事業部 設備部長	米沢 忠大	欠 席
	東北電力株式会社岩沼電力センター 所長	二上 貴文	
	株式会社ミヤコーバス名取営業所 所長	齋藤 仁	欠 席
	一般社団法人岩沼市医師会 会長	森 学武	
	社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会 会長	三浦 一郎	
	岩沼市民生委員児童委員協議会 会長	森 武雄	
	岩沼市教育委員会教育委員会 教育長	百井 崇	
	岩沼市消防本部 消防長	菅原 敬	

岩沼市消防団 消防団長	大村 昇	
岩沼市副市長	鈴木 隆夫	
岩沼市総務部長	大友 彰	
岩沼市健康福祉部長	高橋 広昭	
岩沼市市民経済部長	菅井 秀一	
岩沼市建設部長	星 幸浩	
岩沼市教育委員会教育次長	高橋 弘昭	
岩沼市水道事業所長	森 康雄	
岩沼市総務部防災課長	野口 太郎	
東北大学災害科学国際研究所 教授	丸谷 浩明	
岩沼市婦人防火クラブ連絡協議会 会長	郷内 妙子	

説明等のために出席した者の氏名

総務部防災課課長補佐兼係長	森 俊幸
総務部防災課主査	向井 勲
総務部防災課主事	鈴木 健之
総務部防災課主事	山田 雄貴

会議の公開・非公開／公開

傍聴者／なし

議事次第

- 1 開 会
- 2 出席者紹介
- 3 会長（岩沼市長）挨拶
- 4 議 事
 - (1) 岩沼市防災会議規程について
 - (2) 岩沼市地域防災計画（素案）について
 - ① 岩沼市地域防災計画（素案）について
 - ② 第1回岩沼市防災会議で出された意見等について

③ 岩沼市地域防災計画（素案）の改定内容について

(3) その他

5 閉 会

配布資料

- ・平成 30 年度 第 2 回岩沼市防災会議 次第
- ・平成 30 年度 第 2 回岩沼市防災会議出席者名簿
- ・岩沼市防災会議規程（資料 1）
- ・岩沼市地域防災計画（素案）について（資料 2）
- ・今後のスケジュールについて（資料 3）

会議経過

1 開 会（進行 総務部防災課 山田主事）

2 出席者紹介

平成 30 年度第 2 回岩沼市防災会議出席者名簿に基づき、出席者を紹介した。

3 会長（岩沼市長）挨拶

年末のお忙しいところお集りいただき、加えて、各組織のトップの皆様にご出席いただきありがとうございます。できるだけ簡潔に御説明申し上げ、御意見をいただくということでよろしく願いいたします。

皆様も御存知のとおり、近年の災害、特に自然災害は我々の想像をはるかに超えた状況が続いており、西日本豪雨や北海道の胆振東部地震などについても、想定を超えた分野に入るだろうと思っております。これらについて、我々のような地方都市は、自然災害に対してしっかりと向き合っていく必要があると考えております。

国が自然災害として位置づけているのは、主として、津波、風水害、山火事、雪害ですが、近年は猛暑も加わり、岩沼市では猛暑も含めた災害に対してこれから対策を講じていこうと考えております。熱中症対策は、本計画に具体的には入っておりませんが、これらも市民の生命を脅かすこと、特に子どもたちの生命を大事にする岩沼市としては、早期の手当てが必要であり、そちらの対策も講じていくことを考えております。熱中症対策の一つとなる小中学校へのエアコン設置については、国の支援もあり、全国の市町村で一斉にスタートし、岩沼市も 12 月議会で予算の承認をいただきました。それを受けて速やかに契約を進め、1 月から工事が始まるまで来ております。少しでも早く、計画通りに進めることができる契約になっております。熱中症対策はこれから大きな課題であることを認識しており、取り急ぎ学校を優先してしっかり取り組みたいと考えております。市といたしましては、災害そのものを防ぐことはできないことを前提としており、まずは逃げること、避難していただくことを主眼に計画作りを進めております。

本日は、防災計画素案について説明させていただくこととなりますが、前回の第 1 回防災会議での御意見等を踏まえて今回の第 2 回防災会議では具体的な形を提案させていただき、

また皆様から御意見等を頂戴しながら策定に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様の御協力をよろしくお願ひしたいと思います。

本日はお忙しいところお集りいただき、誠にありがとうございました。

4 議 事

岩沼市防災会議規程第 3 条 2 項の規定に基づき、岩沼市防災会議会長の菊地市長が議長とされた。

(1) 岩沼市防災会議規程について

資料 1 に基づき、事務局（森防災課長補佐兼防災係長）から岩沼市防災会議規程について説明し、原案のとおり、岩沼市防災会議規程が承認された。

(2) 岩沼市地域防災計画（素案）について

① 岩沼市地域防災計画（素案）について

資料 2 に基づき、事務局（森防災課長補佐兼防災係長）から、岩沼市地域防災計画（素案）の概要について説明を行った。

② 第 1 回岩沼市防災会議で出された意見等について

資料 2 に基づき、事務局（森防災課長補佐兼防災係長）から、第 1 回岩沼市防災会議で出された意見等の反映内容について説明を行った。

③ 岩沼市地域防災計画（素案）の改定内容について

資料 2 に基づき、事務局（森防災課長補佐兼防災係長）から、岩沼市地域防災計画（素案）の改定内容について概要の説明を行った。

質疑応答

【東北地方整備局仙台河川国道事務所所長 奥田委員】

風水害等災害対策編の 8 ページに、東北地方整備局仙台河川国道事務所（岩沼出張所）と東北地方整備局仙台河川国道事務所（岩沼国道維持出張所）の事務又は業務の大綱が記載されている。事務又は業務の大綱が重複しているため、岩沼国道維持出張所の記載の修正を依頼する。

【事務局 森防災課長補佐兼防災係長】

指摘の事項について修正する。

【岩沼市消防団消防団長 大村委員】

避難警報の見直しに伴って、我々も避難体制の見直しを図っていく必要がある。特に深夜の災害発生時の避難体制はしっかりと構築していく必要があると考えるが、市の考えを伺いたい。

【事務局 森防災課長補佐兼防災係長】

報道ベースとなるが、国では新たに 5 段階による警戒避難情報として検討を進めており、情報を受け取る側がわかりやすくなるよう見直すという動きがある。まだ正式に決定してい

ないが、市としては国の動きも注視し、その内容を踏まえ対応していく。

【東北電力株式会社岩沼電力センター所長 二上委員】

最近の災害は大規模になっており、ライフラインの復旧に時間がかかっている。県内でもソーラーパネルの設置が増えているが、使い方をわからない人が多く、災害時に利用できなくなることが懸念される。

公民館等にもソーラーパネルがあるが、直流から交流へ切り替えるパワーコンディショナーが屋外についている場合、非常用コンセントが屋外にはないので、屋内へ引き込む非常用コンセントを整備する必要がある。

また、その際は自立運転へ切り替えも必要になるので、防災訓練の際に、ソーラーパネルの非常用コンセント位置や切り替え方法を確認してもらえると、各個人もソーラーパネルの災害時の使い方に関心がいくようになるはずである。

【事務局 森防災課長補佐兼防災係長】

総合防災訓練の中で、非常時のソーラーパネルの使用法を訓練に盛り込む計画は今のところ予定していないが、今後、庁内で調整を進めていく。

【東北大学災害科学国際研究所教授 丸谷委員】

地域防災力の活用・向上について、「自主防災組織や防災士等と連携を講じる」となっているが、前回会議でも指摘したとおり、この2つの組織だけではなく、その他の組織との連携も具体的に記載すべきである。防災士等の一部組織に任せているのではないということが伝わるような記載にする必要がある。

業務継続計画の策定は私の専門分野であり、本文を確認したところ、技術的にもう少し、整理が必要で、趣旨の明確化も必要である。詳しくは意見照会で指摘したいと思う。

避難行動要支援者名簿については、「防災部局と福祉部局が連携して」と書かれているが、行政だけの情報で十分なのか疑問である。基本的には、自主防災組織と連携しての名簿作成が書かれるべきである。実際にどのように作成していくのか。実際の避難に際して非常に重要になってくるので、どのように名簿を作成していくのかをしっかりと議論する必要がある。できればどのように作成していくのか、この場でお答えいただきたい。

罹災証明の交付については、「実施体制の確保に努め」と書かれているが、実施体制の確保に努めるためには、罹災証明のシステムを動かすことができる専門家の協力や他の市町村からの支援等、外部から力を活用することが重要である。罹災証明だけではなく、ほかの部分にも関係することであるが、他の公共団体等から協力をいただく「受援」がある。この「受援」に関する記載箇所が本文の中で容易に確認できなかった。基本的に受援計画について、明確にすることが最近の国から公共団体向けの通知等で重要視されている。広域連携を含めて受援することを中心として、例えば罹災証明の体制作りについては受援計画を積極的に活用する方がよい。

【事務局 森防災課長補佐兼防災係長】

避難行動要支援者名簿の作成に関しては、これまで本市の地域防災計画では定めていなかったもので、今回の改定でしっかりと明記することとしており、今回の改定で計画に盛り込む内容を踏まえ、関係部局や町内会等と調整を進めていく。

また、受援計画については盛り込んでいなかったため、御指摘の件を踏まえ、どの程度書き込めるかも踏まえ庁内で調整していく。

罹災証明の交付については、税務部局と防災部局による庁内調整は進めたが、内部での役割分担であり、受援を考慮したものではないため、ただいまの意見を受けて改めて確認する。

(3) その他

資料 3 に基づき、事務局（森防災課長補佐兼防災係長）から、パブリックコメント募集期間等の今後のスケジュールについて説明を行った。

質疑応答

【社会福祉法人岩沼市社会福祉協議会会長 三浦委員】

先ほど、丸谷先生から意見があったが、災害時には受援力を高める必要がある。特に災害ボランティアセンターの運営等について、東日本大震災では希望者が殺到した経緯がある。これら多数のボランティア希望者を活用するような受援力を高めることなどを視野に入れた計画づくりをお願いしたい。

【事務局 森防災課長補佐兼防災係長】

貴重な意見として計画策定への参考としたい。

【岩沼市民生委員児童委員協議会会長 森委員】

東日本大震災時には、避難所で名簿を食い入るように確認する人が多数あり、家族の状況について、問合せが相次いだ。避難所に避難した人の名簿管理、避難状況を共有する手段はどうしているか。

【議長】

東日本大震災の際は、あれほどの大災害は初めてであったため、避難者名簿の出し方は手探りでいった。最終的には、災害対策本部で集約して名簿は各避難所に張り出したが、避難所にいる人には、名簿がどこにあるのかわからないという状況が生じた。また、災害対策本部に人が殺到し、名簿の数が足りなくなり、うまく機能しない面もあった。

【岩沼市民生委員児童委員協議会会長 森委員】

名簿のフォーマットを統一して、市で一元管理し、避難所へ配信することは考えられないか。

【議長】

市の避難所は学校や公民館等であり、数が限られる。東日本大震災の際には、避難所指定

していない民間の避難所の開設もあり、最大で 36 か所の避難所となった。避難者を把握できるのは、市の避難所のみであり、それ以外への避難者は把握できなかった。また、人の出入りもあり、すべての避難所の避難者を正確に把握することは困難であった。現在は地域で防災訓練もしっかりと進められており、一元管理は可能と考える。

【副市長 鈴木委員】

名簿の管理は時間軸の取り方で状況が変わると思う。東日本大震災時には、被災後 1～2 日は、避難所が多数できたため、名簿の管理は困難であった。岩沼は比較的早い段階で避難所の統合が進んだ。そのように統合ができ、管理体制のとれた避難所であれば、名簿の統合・共有は十分可能である。昨年度から市が実施している防災士の講座でも、避難者名簿の大切さを学んでいることから、各避難所で避難者名簿はしっかりと作られると思う。

【岩沼市消防団消防団長 大村委員】

ソーラーパネルを直流から交流にコンバートするのは、自分で簡単にできるのか、届け出なければできないのか。東日本大震災時には、電源が全部切れ、携帯等も充電できず、右往左往した経験があるので、その点をお聞きしたい。

【東北電力株式会社岩沼電力センター所長 二上委員】

一般的には、各自で売電している情報が見られるモニター上でボタン 1 つの操作によってできる。ただし、同じメーカーでも機器によって異なることがあるので、説明書を見る必要がある。非常用コンセントは最大 15A までしか使えない。また、大部分のメガソーラーは災害時には使用できないので、ソーラーが設置してある一般家庭に逃げるのが重要である。

【岩沼市消防団消防団長 大村委員】

メガソーラーが水害等で水没した際には、周囲で感電する可能性はあるのか。

【東北電力株式会社岩沼電力センター所長 二上委員】

感電の可能性はある。ソーラーパネルは太陽光が当たれば発電するので、基本的には逃げる必要がある。

【議長】

以上で本日の議事を終了する。

5. 閉 会